

札幌都心の活性化

- ・「あんしん歩行エリア」指定区域で死傷事故を抑制
- ・札幌市交通バリアフリー基本構想の重点整備地区でのバリアフリー化を実現
- ・都市再生緊急整備地域で、都心の回遊性の向上、二極化していた地域の一体化を醸成。



【地下歩行空間の状況】



●歩いて暮らせる豊かで快適な都心の創造

■冬期間における課題の解消

札幌市は世界的にも希に見る多雪寒冷の大都市で、冬季に発生するツルツル路面による歩行者転倒等による事故が多発している。



■「あんしん歩行エリア」及びバリアフリー化
国土交通省と警察庁との連携して総合的な死傷事故抑止対策を実施、また、バリアフリー化も重点的かつ一体的に実施。

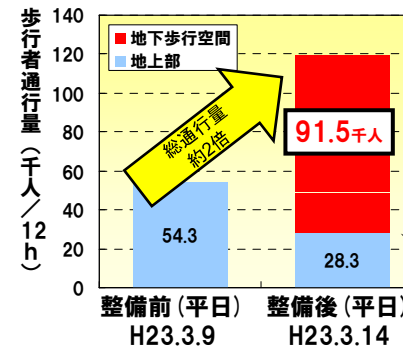
■歩行者転換による効果

歩行者へのアンケート調査によると、約8割の歩行者が地下歩行空間へ転換、地上部からの歩行者減少により車両との接触事故のリスクが低減(整備前状況写真)。



●都市再生緊急整備地域で、札幌都心の活性化

■都心の回遊性の向上
札幌駅・大通駅周辺地域は「歩いて暮らせる、豊かで快適な都心の創造」を目標として都市再生緊急整備地域に指定されており、整備の基本的事項でもある「都心の回遊性、沿道建築物との接続に配慮した地下歩行空間の創出」を実現



■二極化していた地域の一体化

地下歩行空間の整備により、二極化が進行していた①札幌駅周辺の札幌駅南口再開発事業により整備された商業エリアと、②「にぎわいの中心」である大通周辺地域を接続、都心全体としての一体化を醸成

